

✕  
\_\_\_\_\_  
○ //  
\_\_\_\_\_



Handwritten text, possibly a title or author's name, written vertically in a cursive style on the left side of the cover.

494.2

Or-6

No. 3204

12011



富士川文庫

2977

阿蘭陀外科書金瘡目次

一金瘡治方

三 同洗方

五 治筋骨断絶

七 治金瘡血不止疼痛

九 目北四時金瘡方 九方

十一 矢鏡蛇毒治方

十三 同分系 九方

十五 紅夷治法總命

製方印能目次

目次

二 縫糸針

附キリロキチノ油

四 頭金瘡

六 血止之方 九方

八 金瘡膏方 九方

十 頭金瘡分系

十二 免唇治方 分縫法洗方

十四 折傷骨縫

一 アキヲタラキカクウリコム 下系し 九ニ方

ニ テリヤアア 田方

三 バルサム 田方

四 クキキミシ

五 三イラ

六 ウニカク

七 一イシクシイ

八 一イロハサ

九 犀角 附 瓜 薑 皮

十 コキイニヨ

十 一 シタラフソテ

十一 ギタラゲ

十一 ハウテチヤニ

十二 ハウテタルタ

十二 ハウテモウルス

十三 ウテコウフラ

十三 ミタニカ 附 腹 中 出 口

十四 五ツカオウト

十四 ドロツリ

十五 ツヒリミアロ 焼法

十五 一 シヒミアロ 焼法

十六 鈹 燒法

目次終



蘭陀外科書卷之一

金瘡ハ常ノ腫物ノ療治ハ別ク先止血次以燒酒温メ疵ヲ洗ヒ針

ニ糸ヲ付テ疵ヲ見合セ深ク縫ヒ次ニ雞子白三分二椰子油三分一

ヲ加一本綿ノ糸ヲリニ付テ疵ニ入其上ニ膏ヲ塗ラ付テ又腸出ル者モ

燒酒ヲ温メ洗ヒ腸ヲ押入疵ノ大小ヲハナリ右ノ膏ヲ付テ或ハ木綿

ヲ巻置テ又喉ヲ斬者モ同法ク凡テ疵ハ浅キハ縫ヒ及ハス膏

ヲ計ラ付テ治スツニ深ク大ナル疵ハ縫テ治ラフニ洗ヤウ口傳縫糸

ハ疵愈テ後縫取テ唇抜テ取ラフニ後ハ腫物ト同法ニ膿汁出テ

穴止ルモノナシハ其内ニ疵モ愈合ニ糸モ膿汁ト共ニ腐テ抜取ルニ及ハ

サル者モ有ク先略如此或疵ノ処ヨリ或ハ疵ノ切ヤウ或疵ノ大小浅

深ヨリテ縫様仕掛替ル有レ氏夫レハ其中ニ当テキニシテ方見ヲ以  
テ療治ナレハ委細ニ記シ難シ糸コシテヤウ下ニ見タリ

二 縫糸 附針

糸ハスガキヲ用大概三味線ノ三ノ糸程ニスル先常ニ此イカラテ置フニ  
縫中ニ當テ右ノ糸ニキリクキスノ油ヲ塗リ針ヲ付ケ疵口ヲ深ク縫フニ  
針ハ三稜針ヲ用フニ針ニ大少又針サキノツリタルアリ疵相應ナルヲ用ニ  
或ハ縫面端ニ付ツキ

附 キリクギスノ油

人油 椰子油 乳香 各五匁  
タルカイル 麦粉 一匁 葡萄酒 五匁 無才ハ  
右五味合錫ニ入微火ニ煉シ但フラスコニ入置フシ外ノ器ニテハ抜ケモルニ  
此油多ニ塗ノミナラス即疵口ニ塗モ可ク凡金瘡ニスリテ痛急ニ止ル

三 金瘡洗系

燒酒 一盞 椰子油 一匁 右合持温メ洗フ但疵ニ強ク當ラサル様ニ洗フ  
フシ木綿ミラタリ拭ヒ系ヲ付ルシ洗テ四時ニ因テ見合セ

四 頭金瘡

頭疵ハ洗フイナレ疵浅クハ常ノ金瘡療治ヨシ去ナカラ常ノ治ハテ違ヒアリ  
頭ノ疵ハ油ヲ忌ム故ニ油ニテ煉タル系ヲ粉ニメ付フシ又頭ノ疵モ洗テ  
巾ヨリフシ反ハ疵口ヲ洗ハス廻リ針ヲ洗フシ夫レモ届キ疵ハ無用ク  
夕、夜ノ疵日久シケレハ虫ノククアリ故ニ洗系ニソバカラ黒燒ニメテ  
ツ入洗フシコノソバカラ黒燒サシ加レハ虫ノ生タルト無ク

頭ニ油ヲ付ル<sub>レ</sub>一ヲ云<sub>レ</sub>ト云<sub>レ</sub>リ此ハ大畧ヲ云<sub>レ</sub>リ膏ヲ付<sub>レ</sub>金<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>度<sub>レ</sub>多<sub>レ</sub>ケ<sub>レ</sub>ハ  
油<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>泥<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>ラス

五 治筋骨断絶方

金瘡<sub>ニ</sub>テ<sub>レ</sub>筋骨断絶<sub>シ</sub>タル<sub>ニ</sub>用 蟾<sub>蜥</sub> 陰乾 十枚 赤<sub>鯨</sub>魚 陰乾 七枚

川<sub>蟹</sub> 陰乾 同上 右<sub>三</sub>味<sub>共</sub>ニ<sub>テ</sub>疵<sub>口</sub>ニ<sub>テ</sub>入<sub>テ</sub>膏<sub>ヲ</sub>付<sub>テ</sub>又<sub>其</sub>上<sub>ニ</sub>云<sub>レ</sub>ガ<sub>レ</sub>ハ

心<sub>テ</sub>好<sub>程</sub>ニ<sub>テ</sub>ワ<sub>リ</sub>キ<sub>ニ</sub>テ<sub>モ</sub>足<sub>ニ</sub>テ<sub>モ</sub>其<sub>疵</sub>ニ<sub>從</sub>テ<sub>上</sub>ニ<sub>キ</sub>セ<sub>其</sub>上<sub>ヲ</sub>木<sub>綿</sub>ニ<sub>テ</sub>

卷<sub>レ</sub>

六 血止之方

鹿<sub>草</sub> ワ<sub>リ</sub>ク<sub>大</sub> 鹿<sub>毒</sub>血 右<sub>三</sub>味<sub>共</sub>研<sub>テ</sub>ワ<sub>リ</sub>マ<sub>セ</sub>付<sub>テ</sub>ル<sub>レ</sub>

又方

大<sub>麴</sub> 大<sub>麴</sub> 麴<sub>毒</sub>血 右<sub>二</sub>味<sub>共</sub>ワ<sub>リ</sub>マ<sub>セ</sub>付<sub>テ</sub>ル<sub>レ</sub>

七 治金瘡血不止疼痛法

大<sub>蒜</sub>ヲ<sub>薄</sub>キ<sub>テ</sub>疵<sub>口</sub>ノ<sub>廻</sub>リ<sub>ニ</sub>シ<sub>キ</sub>艾<sub>灸</sub>ヲ<sub>可</sub>ク

八 金瘡膏方

椰<sub>子</sub>油 右<sub>先</sub>香油<sub>蜂</sub>ヲ<sub>蝟</sub>ニ<sub>テ</sub>入<sub>テ</sub>蜂<sub>ノ</sub>溶<sub>ル</sub>

ニ<sub>隨</sub>テ<sub>大</sub>ヤ<sub>ノ</sub>汁<sub>ヲ</sub>煉<sub>リ</sub>次<sub>ニ</sub>椰<sub>子</sub>油<sub>ヲ</sub>入<sub>テ</sub>煉<sub>リ</sub>オ<sub>サ</sub>ル<sub>レ</sub>疵<sub>ニ</sub>ヨ<sub>リ</sub>テ

加<sub>減</sub>メ<sub>ツ</sub>カ<sub>フ</sub>ハ<sub>疵</sub>早<sub>ク</sub>上<sub>ケ</sub>サ<sub>セ</sub>シ<sub>ハ</sub>思<sub>ハ</sub>牛<sub>油</sub>ヲ<sub>加</sub>疵<sub>膿</sub>出<sub>カ</sub>子<sub>吸</sub>

カ<sub>子</sub>吸<sub>セ</sub>シ<sub>ハ</sub>思<sub>ハ</sub>葛<sub>麻</sub>子<sub>荷</sub>葉<sub>ヲ</sub>加<sub>疵</sub>要<sub>品</sub>ヲ<sub>ハ</sub>白<sub>凡</sub>ヲ<sub>加</sub>復<sub>ノ</sub>疵

ニ<sub>蕎</sub>麦<sub>粉</sub>ヲ<sub>加</sub>右<sub>加</sub>減<sub>ニ</sub>金<sub>瘡</sub>膏<sub>ニ</sub>成<sub>ラ</sub>ハ<sub>金</sub>膏<sub>ヲ</sub>付<sub>テ</sub>

又方 金<sub>瘡</sub>膏<sub>也</sub>

唐土ニ製 丹日 椰子油 三製 蜂日

右麻油ヲ入ヨ干加微ニ煉リ付ル如シ臭ニ疵アリテ早ク金サシロ男ハ口メ  
イロク云ヤノ根ヲ陰干ニ末シ加ル此草日本ヲツラフリヤク云  
トニヤキ松カサノヤウナル臭アル中色ハ紫ニヤ黒キモノ

又方

椰子油 卅製 豚油 日 唐土 五製 松脂 日 片腦 二製 雞子油 三製

右六味煉リ合付ル

又方

椰子油 十製 人油 五製 雞子油 日 杏仁油 三製 右煉法如常

又方

蜂 三製 豚油 日 椰子油 日 脂 少 圭 少 片腦 少 丹 少

又方

蜂 十製 松脂 日 椰子油 三製 片腦 日 唐土 日 杏仁油 見合

又方

臭水石 十製 龜腦 一製 麝香 日 白粉 三製 丹 日 土龜霜 廿製

右六味末ニ大豚油ヲ調フ付ル又腫物ニ用ユ

又方

椰子油 十製 鹿油 一製 葡萄酒 日 沉香 四製 小麦 十五粒

右先油ト葡萄酒ト小麦ヲ入小麦ノ舌ノトクタルニ返煉其後沈  
香ヲ入煉布ヲ濾シ壺ニ入口ヲ封シ所ノ入ヲ又ヤクニ大置クニ疵痛

ハヤシ温カテ付ル也

又方

黄蜂一斤 二斤油十匁 牛油四 豚油四 松脂四 葶苈 葉シメ

右合已煉リ次々阿仙美 三匁 入如常煉シ 金瘡三日ヨリ以後付ルニ疵

コリ痛ニヨシ一切ノ疔腫物共ニ用

九 金瘡北四時金ヤシリヨウゴシ

カンフル 四匁 片腦 セルウサ 爵金セ 松脂シ

猪油 十匁 木綿ノホツリ四 右猪油エルホウニヤニ炭解シ布ニテラフシ

カンフラ カンフラタル セルウサヲ入和ニ煉

同北四時金シ之方

松脂 唐土 片腦 各五匁 龜腦 白粉 各五匁 乙切草 二匁

右合煉下錫木綿ホツリヲ細ニ切シ一撮入煉サセテ此膏コトニ紅毛  
紐方シイカナル疵モ二十四時ノ内ニ愈ルリ云

十 頭金瘡之方

右記カク頭ノ疵ハ油ヲ取ニ此葉ヲ用シ

乳香 没薬 各五匁 雞子莖 二ツ分 右乳没ニ味ヲ細末ニテシカ

テイテ雞子莖ニ合セ烈日ニ白ラ煉合ニ火

十一 鉄鉈疵治方

矢并 鉄鉈ノ疵ハ深キモノハ疵ノ底ヨリ金止ル様ニ療治スル下 肝要ノ表

ハカリ金ヲテ裏ヨリ金サレハ火更シ此葉ヲ用フシ



ワラヤイロナカラニナカラニノ玉子蔭干し乳ニ煮 松菜ノ根蔭干

右四味ホシキリハキスノ油ヲ細ニ批ノ口ヨリヲク流シ入口ヲ縫置し又批

深メ茅派入雜キハホイワニ合セ批ノヲク追突入し如此ナレハ批ヲク

リ食止ルし總別批ノニテラス深キ腫物モホイワヲ用テアル

### 十二 兔唇治法

三フロノ瘡治ハ先立ニ切先唇ノ両方ヲハサニ立テシケイルニテ両方ヲ

テヲハサニ切リ右ノキリハキスノ油ヲ温メ鳥ノ羽ニテ付ルハ血止ル

身後疵ヲ縫フ

### 附 縫様

血止テ後糸ノ両端ニ針ヲサシ糸ニキリハキスノ油ヲすり能糸ヲス

キテ先鼻ノ下ヨリ縫ニ初方ニ処程ニ針ヲ戻ハハ搦テ縫フニ其後留針

ヲ内ヨリニ処程縫フニ口傳アリ次ニキリハキスノ油ヲ木綿ニ浸シ縫

ムル上ニハリ付ル但疵ニ茅ヲ付サレ取ニ先キリハキスノ油ヲ能温メ縫

目ニシガリカク身立ニ右ノ油温メ大其依木綿ニ付其立ニ雞子白ヲ

又木綿ニ浸シ右ノ上ニ付置フニ二日過テ後洗フ也

### 附 洗糸之方

フ知ウ酒古酒ニラモ 椰子油三分一 右二味能加裁ニ温メ疵ヲ洗フニ下メアト

ノ内ヲボシホリニテノ口ト洗フニ此以後ハ毎日一度ワシ洗フテ右ノ如

クキリハキスノ油ヲ付テ雞子白ヲ付置ル三日過テヨリ右縫糸三

処ノ内中人糸ヲ切取殘ル糸ハ一七日過テ扱ハルフニシ返食度

ニアタル程ノ物用ニシタ、ワリ強ヲヨシノヲサツ、吸ヒ言ハス笑ハス  
人ナキ処ニ引籠リ居兔角口ノ崩カヌ様ニシルシ如此スルニ七日ニメ合シ

十三 付ケテ

アトウ酒 一匁 人油、 椰子油 十匁 漆石 四匁 タルメイル ユタ但粒ヲ用ル

右酒入油椰子油小麦粒ヲ鍋内ニ入煉リ麦粒盡テテホロクワルル片  
コレ鍋ヲ右ニ其後ナル石末ニカ入煉サセシ壺ニ入置シ

又方

小麦粉 十五匁 糲麦粉、 右ニ味水三升入天目一盃ニ蒸シ布ヲ  
コレ椰子油天目ニ一盃古酒天目ニ半合入煉リ右以上ニ盃半ヲ二盃ニ  
蒸シ乳香末ニメ五匁入能拌セ壺ニ入置シ

十四 折傷骨純

手足折レ外傷レカルヲツグヲ袋フギト云或クタケタルヲ見分ケ  
折タル処ニ三処或三処ニテモ疵ニシタカフテ針ヲ属トサシ其上ニ此葉ヲ  
付ルヲシ

一方

タルメイル 十匁 麦粉 雞子白 右ニ味調合セ折タル処ニ付ケ其上ニ金  
簞ノ仕織ノ如クユウアホノクニテヲ切り手ニモ足ニテモワサニタテ其  
上ヲ木綿ヲ空ク巻キ置フシ又針口ノ処ヲ一日ニ度フ、葉ヲ付替ル  
骨折ノ人痛ニハ早速引キ延シ針ヲモサ、ズ右ニ記スニ方ノ葉  
ヲ付右ノ如ク木綿ニテ巻置フシ凡テ手足腰何レノ処ニテモ骨折レスメ

クシキ痛ニ此ノ如ク瘡治スルキ

阿蘭陀金瘡鬼唇折傷治法終

十五 阿蘭陀治法總論

凡人身皮厚薄キ処アリ又厚キ処アリ又サキ処アリ  
又筋人集リタル処アリ気モ又固最シ又経ノ深キ処アリ浅キ処アリ  
故ニシレクニ見合セテ了箇ノ膏藥并針ヲ用フキヤ  
皮肉薄キ処ニハカタク強キ膏藥ヲ付サルシ皮肉<sup>疑厚ナラシカ</sup>薄キ処ニハ成程強キ  
膏藥モ苦シカラヌタリに潰レテ愈易キシ總別骨ニモ入タル深キ

腫物ト男リ、随分利止ケ痛ク入ラサルヤウニシキ

多血ノ氣ノ処ハ何程膿血出テモ苦シカラサルシ又多血ノ血ノ処ハ随分散  
レ潰ラサルヤウニシキタリ潰ラシ大令膿血出サル様ニ瘡治スルシ経浅  
深筋ノ多サニヨリ針ヲ刺ラテ心得フキシ

ウイキノ仕様ハ口明サル取ハ子ウイキヲ用口明ハサレウイキハ腐肉有  
オハウイキ先ニツカハル様ニテ腐肉ハツテ後ハツカハサル様ニテ生肉  
ニアメラサル様ニナルシ

針ノ刺様譬ハ腫レオアル腫物ナラハ此分程サスル筋ハ下ニ沉テアル  
モノハ経ハ腫物ノ空モ通フモシシカレ膿ニ成テハ通ルナシ  
血兵ノ命ニアル腫物ニ針ヲ刺シハ皮ヲヒシロ押テ氣ノ通セ又傷ニ入ル

サカシ氣ノ合ニ生ル腫物ハ針ヲ横ニテセテ血空ヲ傷ラサルヤウニ  
皮空ノ間 此所脱文アリ

腐空ノ取極ハ生空ニテナリ血ノ走ラサル様ニ切取ルハ腐空ノウチ血出  
ソウ成ニハ焼針ヲ以切取ルモ吉

膏藥付セウハハラ木綿ニ合付ルハ總メ皮空ノ厚キ処ニハ成程膏藥  
ヲ厚クシ付レシ皮空ノ薄キ処ニ夫ニ相応ナルヤウニシテ腫物引上  
潰セシケルハ腫物ノカラ相名ヨリ大ニ合付ルハ靴ニ蓋ヲサシクニ  
先大方如此

カウカフラスマノホヤウハ早ク引上潰リシキカウカフラスマヲ成程細ニ煉  
真ニ幾程モ折撰シ口明ハ膏藥ヲ付其上ニカウカフラスマヲ折つニ

温散ノカウカフラスマノ方ハ温藥ハ寒藥ハ合ニ合セ藥味ヲアラクニ  
ラ一煉付ル片間ノ方リハ持ニナルハ散ニ用テハ成程細ニ  
ラフカシハ腫物取去ル中ホツリニ浸シ洗フシロヤキ腫物ハ水乾ニ  
テ洗ヒ中ノ血空ヲ皆取ルハ又ホツリニスリテ下ニ付置ク度モアリ

右治法大略如此委細ニ記シ難シ能工夫ヲ療治スルニ總メ一切ノ腫物  
ハ温藥ヲ兼ル者ヌニ故ニ辛辛ニ散サシトメ寒藥或強ク押ス藥ヲ  
貼スレハ却テ底ニ沉テ凝堅テ取レ散ヒ和カニ温散ヲ用ルカ良又引上  
シト馬ニ本ヨリ熱アル腫物ニ又外ヨリ温藥ヲ付蓋フ取上ルモシ大  
ハ火ニ付水ハ水ニ付同氣相求ル理ハ此レメカニ治スルノ法ハ必無理ナ  
ル療治スルカラ知此ハ持專一ハ膏藥類ハ別ニ記有ハ各工夫ヲ用フニ

阿蘭陀製茶之類切能

アキヲタラキカハカウワリユム 下葉し

カウロウタエニデタアノ フヨウノミ 四十二枚

ア、カ子リセイ 下葉

ア、イラホウル子キレイ 目

ア、ルツイ 十枚

ア、イシヤステヤロウホムアハアラス 合葉し

右五味ボウ酒ニ浸ラテ十日其後火ニテ煉シ加減ハテリヤアカノ加減七水或酒ヲ用ルル但一度早腹ニ用レハ三度程下ルル

同アキヲタラキカハカウリコム

コウロニクエニテダア 四十二枚

ア、パ子クセイ 十枚

ア、イラホウル子キレイ 抽ノ根毛用 十枚

右合メル九分程酒ニテ用

ニテリヤアカ

解諸毒、虫咬整シタルニハ下ニ付ラ其止ニ膏ヲ付ルル月水滯

タルニハ白湯ヲ用或妊婦ニ不用又耳鳴聾耳ルニハカア多クノ油ヲ

サス耳内腫痛或熱ナルニ用其外癰疾疾飲冷腹痛ニ良方一氣ツ

ケシ凡呂ナクニ入中々用レハ冷ヲ退ク者一切諸病凡テ効アリト

云此方日本ニ製シ難シ又紅毛ニモ茶店ニテ調合スルアリ笑レヒ

方傳來ル故ニ百ニ記ス

テリヤアカノ方

アシトウアセ 脂 二百四十枚

ヒイフレイスロウカ ヒロツシ 同

カチウセスコロムシイ 紅毛竹手掛し 百八十枚

ラビテハイセ 子リ美 十枚

ロサアロン 同

ラアテキスレリヨウロシ クサノ子 同

セイメニリイヒ カフナノ種 同

ロハルサ 大菱 四十八枚

カロウセスラヤコラン サシニシ 百八十枚

シロルサメ 唐土 七枚

レヒリムルサメ 七二枚

アカアリセ クサノハ 十枚

イリヨス クサノ子 同

スアフルトヨム 石楠ニ似ル木

セナモウメ 実主 同

スヒイカナルデ 同

スクイニシテノ クサノハ 同

セシセイフルス 生美 同

ライノラカロカイタ オウシヤ 同

テシニシテイナノ子イチヤ 同

。ライレイリス 合葉し 同

オウレイモシタア子 山ノ名ハエルヤ

コメアラアヒセ ヤニシ 同

エイハア ヒトシノ根 同

タイラセケラウタ 中ノハ 同

ラアテキスレシ ヨノ子 同

コロコラブリシタアリス サフラン 同

カシヤレイ子ニヤ ウス皮実主 同

メラ 同

カラタシテモシタア子 スイシヤウ 同

スラカアハスアゲセイ 同

オウリヒラホセ子イニ 紅毛芥子 七枚

ヒイテリヨウリヨスラタニ 燒返し 同

スクズヒリユイナ ヨノハ出嶋ニ在 同

ケシヒヤアナ 中ノハ 同

カルコリルサメ ハルサメノ根 同

アモウ子 石クネリ 同

セイモシヘニイクリ 七苗香 四十八巻

アチキセイサアト 同 同

モミイト ミイラ 同

ヲホウハアチクス 同

セシタアウリスノルス クサノハ 七ニ製

ラアチキスア スワウウクシ 黒ク、木根 同

ハスキナカカセレス テリス 日本人多 同

ラウウイシ 赤ブクウ酒

右脂ハ醋ニ入浸シ蒸シトケタル中又蜜トグロウ酒ヲ別ニ温メ此ニ味ヲ

セシモシハ子 レスモニタア子 山イラウニシ 此ラ製

ナラコルセイ 中実 同

イウヘリ シサアト 二切草 同

カヲクウリ 同

コハアサハルラ イタリヤトモロノ根 同

コカカルバア子 ヤニ 同

ラアチキス タウセイ 同 根 同

ホウノノ 蜂蜜 十ル製

除キ残ル者ヲ細末右脂ヲウ酒蜜何モツニ入好加減ニ煉シ但一時程煉火ヲ去リ翌日迄置又一時程子リ火ヲ去リ又翌日一時程煉シ如カメリテラハブウ酒ヲ入添能子リ五年モラ年モツカフシ

三 ハルサモ

穴深キ腫物ノ底金難キニメイチヤニ付サシ入テ能兵ヲ上ケ金不面ニ疵ノ痕アルニ木綿ヲ其上ヲ幾度モ研リ其上ニ付シハ常ノ肌ニ成シ或ハ腐リ入腐リ腫物ニ付シハ腐リ能止大肉ヲ上ケ金瘡ニ少温テ木綿ヲタニ浸シカラキカ酢ニ付ツクシハ能愈又人ヲ焼タル身ヲ或腐タルニ逢其外要臭ニ觸ルハ臭ノ下額ノ口ニ付テ痲不又夜寝カキ寸モ額ニ付テ能睡之紅毛ニテハ国王ノ灰タル寸ハ灰凝ニテリ 棺ニ入置ハ永ク腐ラズ又切疵

癰疽一切疔ニ付テ良或筋骨痛ニ強ク温メ痛ム処ニ付テ或牙齒痛ニ揚  
枝ノ先ニツケ痛ム齒ニツク耳腫痛ニ良頭瘡或火傷切疔ナリテ出ハケ光  
ルニ其処ヲヤロキ破リテ此油ヲ付光ウセテ常ノ肌ニ成ルシ灸レハ  
渡リ葉ニテ日本ニコレナシ併ハルサモノ方傳来スルニ因テ古ニ記ス  
ハルサハノ方

熊胆 五錢 琥珀 赤七錢 右ヲオシテ好加減ニ煉槍脂十錢加フコト

四 ヲアキヌシノ方

ツリヨアルカニ 代ノ由 百目 ラアテキスサルテイヤ 葵根

セイモン一チケレニス 台ノ仁 センモンリノ子 古芦巴

右油ヲ除殘ルニ味ヲ杵キタラカニ右ノ油ニ浸ス度七日サツト蒸シ木

綿ヲ查ヲ濾シムヲリヨカモカリ ヲリヨレリヨロン

右各此製ツカテウカキスニウ云シ

五 ミイラ

打撲折傷ニ古酒ヲ醗フ程用又傷寒後胸痛ニ歸ニテ一兩度用テ良難  
産ニ未ニメニ分程葡萄酒ニテ用疔瘡色悪クマアケカスルニ歸ニテ用レハ  
疔瘡癢スルヲヤシ又陰部ノ傷寒難治ニ未メニ三分ヲ白湯ニテ  
用即熱退キ良又癰疽難治ニ未メ椰子油ニ調一分レハ腐去テ愈  
ニ又腫物底ニ沈ミタルニ用レハ能引上ルシ又疔瘡上リ筋骨切レタルニ  
湯ヲ用フニ能筋骨ヲツクシ灸凡外ニ骨結ノ葉ヲツクフニ或面  
ノ疔瘡ニ合ニ合ルニミイラヲユフクウクウニ子カクシハ灸上テ愈シ又



産後或手肩ヲ狂乱メ振ウソリテ有ニ湯ニテ用毒（疑白）自痢或泄瀉難治ニ  
白湯ニテ用契醒テ治ス少便不通ニモ少用テ通ル（疑）日少便不通ニ

ミイラニモ 猪令 沢 地 各五分 木 圭 各三分

右ホメワウカロ、サアロシテ丸シ一慶ニ三分ヲ用フシ又ミイラヲクワシキリ  
スルマセイテ右ニ味合付テ早食シ又ミイラ白蟻アセテホルワルテ  
レムンテイナ合テ概ニ付テ肉上テ食或煩契頭痛スルニ用テ良落馬或  
高处ヨリ落テセツシスルニモ合付ケニ用又脚痞疾アルニ用又吐血或食傷  
ニハ酒テ用又毒虫臭咬ニサシタルニハホメ豚油ニ調フ付又糊ニ合セテ  
付モ良淋病ニモ良

六 ウニカウル

諸瘡便毒ニ酢ニスリ合セ付ルシ又水ニ溺レ込スルニハニ三時過ラモ良サスリ  
テ用レハ大少便ニ下テ良又食傷版痛契アルニ水千ヨクニ八分目程入水少  
シ濁ル程ニ研リ差テ用産後版痛ニ右ノ瓜一箱根中生ニテホメ茶一服程  
入レ用テ痛止シ又産前ニ用レハ子生ルト易シ

七 シシケル

ハヤウニホメ付フシ又手肩ノ痲口ニ捺リヤケテ血即止ルシ又毒虫臭カニ  
サシタルニホメ付ルシ痔有病人不絶身ニ洗テ持テ良又ホメ水或酒ヲ用  
ヒ身内ノ砂ヲ下スルシ血止ニ良下血モ右ノ如ク用フシ又咽ニ物ノ差スルニ  
用瘰癧ニモ良シ

八 イカロハサラ

諸毒ヲ解シ赤而チヨクニ七分目程入用フシ又四ノ内ヲ研リ水ヲ燻ルヲ  
得テ用フシ又諸熱醒カクキニウシテウシテ合ヤスリトヨクニ三分程用テ  
即醒ム又疔瘡色悪クヤニアケカスルニ水ヲヨクニ半分程ニテ用ヒ投テ去  
シ毒虫巢カミサシタルニ末カ付テ痛止ルシ又陰疔ノ瘻ニハ水ヲ研テ  
用テ灸ヲ引テ補フシ

九 犀角 附 犀角 齒皮

才一諸毒ヲ解ス腫物熱クシ痛ハ水ニ磨テ幾度モ引テ○犀角ハ  
難ニ摩ニ水ニ浸スリ用テ細末メ酒ニテ調暗下ニ引レハ胞衣ヲ下ニ引テ  
痔ニ引テヨシ水ニ磨用テ能熱ヲ醒シ○犀角ハ腫物熱ル中水ニ磨テ  
テ止痛散腫熱甚腫幾度モ引産リヤカニハスリ服テ又産後患ナシ

○厚皮瘡疾ニ藥カ一夜サマシ用テヨシ總テ犀角ハ解毒ニ依テ用テ妨  
ケナシ水腫ニ藥用又少妙サマテテヨシ水ニテ服スレハ吐血ニ妙シ

十 子イイヨウニヨウニヤシラシ

赤白痢或ニ三歳ノ小兒ニ水ニテナリ肛門ニ付壯人ニハ日過服テ又小兒頭瘡  
ニハ水ニテナリ度ニ付ルシ又ハヤクサニハ水ヲ酢ニテナリ付帶下ニハ麻ノ葉ノ  
ルニテスリ立最後ニ付又喉痛熱熱ニハ水ニテナリ服テ又霍乱ニハ酒ニテスリ服  
テ又毒虫巢ニカミサシタルニ酢ニテナリ付又喉嚨ク味嗽アルニハ酢ニテナリ  
温腹乃産後腹痛難止ニハ茶カ一服群コソグ紙ノ上ニテ炒テ末メ酒ニテ用テ  
又陽酒カ合テ好キ加微ニ温カ右ノ末メ茶ヲ用テ妙シ又傷寒ニ末メ水ニ  
テ用テ妙シ

十一シタテフワラ

解諸毒虫霍乱種ニ水ヲ用池写ハブク酒ヲ用下テ後アウラ止メ中  
ヲ調テ好シ

十二ギタラブ

一切能右目取

十三ハウテチヤンハン

諸瘡初発ニスリ付テ敷ルシ又小兒ノクサ瘡ニ葉ノ葉汁ヲ調一付又ブ  
リウ酒取ハ酢ニテモ調一付シ能血熱ヲ冷テス

十四ハウテカルク

エヤク口虫瘡ニ水ニスリ付田虫ニハミイテ加一付テ良又先下ラブトウ

酒温ク洗テ身ツノ赤ヲ赤分ニ合痔瘡ノ類ニ搗リ又上ラブトウ酒酢  
温ク木綿ヲ浸シエホリ温カナル迄ニ其上ラ布置シ痔漏痒ニハアラク  
酒ニテスリ塗テ良其香ノ悪キ中シ

十五ハウテモウルス

此瘡ニハクノ油ヲ用石味ハ酢ニテスリ用エ一切下焦ノ濕熱ヲ除ク

十六ハウテコウフラ

諸毒虫咬ミサシタルニアラクニテスリ其口ニ付シ又水ニテスリ毒気  
走ラ腫行ク処ニ引強ク巻置テ之ニ安シ霍乱ニハ水ニテスリ用大抵アル  
中ハヨリ碎テ用熱醒ルシ瘡ニハ膿蓋大用

十七ミリシカ

小児腹中虫有テナヤミヲナクニ先砂糖ヲチヨクニツ程用ヒ平時亦過  
 テ此藥ヲ湯ヲ用即虫委ク死シ其後糞モ虫ノナヤミナシ大人如  
 此ニ用テモ虫死シ頭痛ニハ湯ニテ用

腹中虫之因 人ノ腹中左ニ此虫アリテナヤミヲナス  
 オカリヨアブヒニテ用テヨシ



十八ノラテシカウト

紅毛木し味甚苦才一諸虫ヲ殺ス毒虫咬サレタルハ其方水ヲ分諸腹痛  
 痞滿積聚ニ藥用又小兒初生虫或胎毒ヲ腹高ニ痛ニ啼サレケニテ計並  
 シ用テ立ニ止ム奇妙シ

十九クロフコシ

紅毛ノ煉藥し百葉蒸ノ如ク黒ク光リテ味辛シ疾ノ主藥シ痰咽ヲ

サカリ呼吸難通ニヤ吞下ス又ケツリ白湯或生姜湯ヲ用立ニ良妙シ凡  
 疾ノ天知ナシ日本藥店ニハ是ヲ名ウラウホワク云新者粘アリ知モ又ヤシタ、  
 古キヲ用ルし古キモノ尤得難シ近來似カレモノ多クシ吟味ヲギシ

二十ツツヒルマアト 燒法

アセルコム ソフヒルマアト 十數 サルヘイト 白土ニヤウシ 四十數

水銀 一斤 燒監 目上 酢ヤ

右先水銀白ニ入細ニツキ文壺ノ上土ニテ塗リ口ヲ大指ノ通程明テ燒片  
 イキヤルしイキ氣ニ入ラサル様ニツキ壺ノ上ニ付タルヲ上カス残ハ要シ

廿一ヘシヒタアト 燒法

カリクワリヨウス 丸數 ソフヒルマアトノ度

水五合合五日メソフエルマアト下ニ泥タル片上ノ水ヲ捨シ其上水銀朱分  
ニ合セ濃利ノ口ヨリ決フキケルアトハ黄色ニ成其後水ヲ入又燒片色赤ク  
ナリ此色ノ赤ク上トス朱砂モ加テ良

世二 鈔燒法

鈔一斤 硫黄一斤 右鈔ヲ細ク切土釜ニ入炭ノ上ニ置炭火ヲ又上ニ置  
鈔ヲカシテ硫黄ノ細末ヲカシ、鈔ニ上ノ火ニモ捲リ拭、トコト燒ホ  
ロコト成迄燒好加減ニ燒タル中水ニ入シ一日五十月度モ水ヲ暫晒シテ朱ニ  
ナル

世三 鼻タハコ

刺相中ノ花ノ水ニノ燒カタメ日ニテ末メ用シ 吹氣ナトノ寸鼻ニキ

コミ噴テ即チ良

七種ノ粉藥

黃柏 麵粉 阿仙美 土白粉 爵金 解鱗血 氣香  
金膏シ 膏ニ煉リマセマカフシ 何モ生ヲ細ニメ

紫茄膏

紫茄 蓮葉 青木葉 石菖蒲葉 柎ノアマハタ  
蜜 明唇 燒込シ 右為膏散腫止痛

阿蘭陀製美功能終

阿蘭陀口外科書目次

紅毛口和解一

一身躰 二五臟 三六腑 四痲名 五器類 六草類

七木類 八鳥獸 九虫類 十金石 十一酒名 十二雜

十三數量

紅夷人治法二

一痲源論 二經論 三焚瘡 四冷瘡 五凡瘡

六瘰 七疔 八疔瘡 九癰癤 十癰疽

十一經腫瘡 十二小瘡 十三水腫瘡 十四囊瘻 十五レニシヤド瘡

十六カシコウロ云瘡 十七類疔 十八疔瘡 十九重舌

北フレイミンク云瘡 目録終

阿蘭陀口和解一

凡夷人之方言雖無益于医業欲学此流者不可不得知焉  
故因記其梗概如左

一身躰之類

人カニス 首ヒスカウス 鼻ナリス

耳ラレイロ 目アウク 口オウカ

腹バリイカ 背コウス 舌リンゲ

齒デンテ 手マシ 足ベイ

指テイ 喉カルガン 筋子ルホ

骨 オフリ

髪 カシリイリヨ

唾 ドシラゴ

呼吸 マスルチリヤ

眼胞 スシイチ

尻 クウ

囊 クリヤシ

陰門 ヌウシ

鮮血 サンキホシ

凡テ腸ヲヌアルマ

二臓

五臓 イヒマアダ

肝臓 レイフル

肺臓 ロシコ

心臓 ハアシ

腎 ニイル

脾 カルス

三臓

大腸 メルム

小腸 サアロブレケス

胃 コアリ

膀胱 ブラアヌ

胆 ムルホ

三焦 失ス

四病名

瘰 アウラテイミ

疽 アラシケイシヨ

疔 アフセス又ウルウス

類疔 カシムラス

癰瘰 カシカラ

又アルフシコ

癭瘤 テツキ

疔瘡 セイルカス

乳腫 マチフルウラシ

楊梅瘡 ホツクモリ

囊瘰 アルマ

腎囊凡 マセルラシ

金瘡 イシヒイソイ

ハルラシ

瘰疽 ハナリシヨシ

白秃瘡 ハアルラシ

凍爪 アギルニルアラ

疥癬 マアマル

水瘡 マコロウ

癩 フルラトシ

疥癬 マコロウ

水腫 ヘシテクシテシイ

鶴膝凡 ニイルギ

疔瘡 マコロウ

眼胞 苗ヲオルミヤ

人面瘡 ナイキンヲウク

重舌 ラカラ

喉痛ハルサアリセイル

筋痛アノロニウルホ

痔瘡カレケルイナ

頭痛ヲブクセイル

淋疾ボロイフウル

石淋カラオケル

疔瘡ヘレマ

咳気ウケルイヌニイラケルアルカン

吐逆ウフルゲイヒ  
ルテ瘡紫色ニルヲレシヨシヤリ云

瘡瘡類ラケシドロホツウハモクマアルルモ云し

五 器之類

ホロツツカサ疑ケル

アノウル 針筒

シケイル ハサミ

クニケウコテサシ

レクシイル ヲビキ

シケウカス 瘡切

スオウケルヘラ

エセイメ ヒラ針

エウルタン モビキ

クウケルタンク 玉子

クウケルケル 舌押

コウケルウリ 焼カキ

ハノカ 瘡切

イシシ、カスモ 瘡切

サアカ 骨ヒキ

サウカ 瘡切

シケイカス 鬚ソリ

カテイルカス 瘡切

ベシウガ又シウカス  
皆クニケル

六 草之類

イリヤス 白飯

アルクシ 大角豆

ヘシアルズ 麦門冬

ヒシラヒイハ 常山

アノウル 青黛

シルオテシ 草葉

ヘリオリオン 蛇床子

ヘルソテイヤ ヒコシ

アホイシサアワ 小茴香

シカモ子イヤ 牽牛子

ハナツケル イシト

又ヘクリアホイシサアワ云

レリウウロシ 百合

アイキアウカス子キヲ百合根し

アンセリカ 羌活

サルモウシヤ 生姜

カンダヒ 牛シツ

フリイカン カ香葉



オウトラアルシス 馬齒見 カモメイリ 野菊 マニテ 薄荷

マロウセル 忍冬 ニテルシル 金銀花 カルタモン 縮シヤ

カルモス 葛蒲 カルモスアルコライニス 石葛蒲

カキヨア、ナ 天竺 卡尔カレンキ オウクキザ サアロン 砂トリ

エイトラ カキウシ オウリ、イナ 羊菜 ラアキキエウラコイリス 指薯根

オアウシスガア 肉ブク フウリセイナ 肉豆蔻 ムカアタ 肉ブク

ラカ、イフル 草花 クラルビタ 瓢箪シ クミイニ 茴香ニ似ルヤ

ウズキイ 牛草 タラクス 和人多 子バ クキ人ク

アフヒニテ 茵陳 フロウラニ トラヤ クギリシイヤ 寸ヤ

カルタモウム 縮砂 カア、テリ 木香 アニイシ 大茴香

アルバナシタ 苣荬菜 タル子リス 白苣 名シイ 苦菊ヤ

レイレ 萱ヤ アネテ 大麦 カチカケル 大麦粉

タルカイル 小麦粉 一レハヒヨウラス 駒川ヤ アネモウチ 倍ニ云猫荳

ルウタ 此の和名モ其 各ヲ用 セリセカリ 菘 一ツケシ 菘豆

ヘタウニアロモ 大尻ヤ ルウラス 覆盆ヤ又 フラキヤ リクヨロシ 二人

リノニ ニノ仁 オ、イサア シズノミ サカフニ シノ根

カヅ、ンイ子ス 虎尾ヤ サンフウシ ハク フロシオウム サクキヤ

ヘルリア カシヒ エイトラカ 枚ヤ アクイセウシモ 同

ヘルバ、ソリ 苦菜 セイモシラアヒ 苦苣菜 カリロウ 赤ウチヤ

一タウニパニル 此モオウチヤ セイバア 葛根 エルエウシ 仙人ヤ

ハレイナリイ子 胡麻人粉 ハロバアルタア子 ナモミ サシユウシフレイル 山灯心

シシタラフイヤ 女郎花 オル子イラ 夏枯草 アラメスアミ、テユス 山ブキ

アキリモウニヤ 麻焼草 フレイルサンオウシ 山吹 オホオチクシ 石見根

カワシ子ケレイス此モ鹿尾草 カリテムクシマリヤ又カルテエラセルアヤ 續断

アルコロリイヤ 續断 アテラレる 甘草 シブイカシレクヤ 黄連

ラテイトレサヤ 蘿蔔子 ラツハ 菜類 ハルコシ石大イ 巳イヒユム

ラアノテキチイサ 皆半来 テノルバ ラアルマ アセカウサ 牡丹黄

ラレリホラリヨシ 血ハシロヤテアテキスエチウリヒヨウルコシ并ウリタハ 山年喜子

レハカウヘイシ(五)ス美んヤツラア子 苣荬菜 ラツカヤ 苣

ホウリソラア子 苣荬菜 ヘレハランヒリイイ子シラハ ツミヤ

ツラクロシ 小菰子 又(レ)ハリラクロシ ヘフシマルバ 小菰葉

ルイタアミラリヤ アンカロセイモ モル子ラア子 苣ワルコ

タンチイヤセン○フラシタアゴ○イシヘレイ 皆常ノハユ

アルクミビヤ○アルクシイヤ○ロウラスナ 皆蓬

ロウサ 菘ノ巻赤し ロサアロシ 菘ノ巻白し イシヘレイ 車前子

フラシタアゴ 小菰 ハシリヤ 丸菘ノ ロメイロ ツラフリヤ

ハアリタアキ ヒイロヨ 乃クスリタリシヤ 甘草 カシフリヨ 赤根草

コロエス 紅毛ノ菘木ヲ三ヨウヲスラシタリス アクヒヨシ 苣

ヘイメラセイイリ 野苣 野苣葉 サフラシ 野金

アウセイイロセイイラ 金草 金草 小ウリハフハアブス 小ウリハフハアブス ヒノミ

イリス くりぢのつ くらぐげんぷル 干姜 ルイハアルホ 大莖

アシヘシヤウカ ハ千葉 タンチヤピシ 蓼 ラアテキスアララミミヲ 苧根

ラアテキスルイテイニ○ろいナ○フルニ 干葡萄 千葡萄 羊アテキスサルテキ大莖

ラアテキスヘロウクリニセヒセイ 川弓 カリロウ ロウチン密皮

ミロウクニシラダア葡萄藤 ヒロウヒヨラアロシ 密皮 へハ 草ノ總名

クルミテイラス スケレノ葉 クロウフル 大豆莖長し へロウリナ 元花

コケリイアリヤロホウハニ名考ニ葉 三ツウリタヌラアテキス 皆根ヲ云

七 木之考

ヘイクル 胡椒 フケラフ 沉香 ヒイナアルヤ 白鮮皮

ヒイナニ 梅房子 レナノモ 鳳尾 カイラ 收系

カルテロウルシ 柾栗 キミニメス 木乳 サシロウクルイリ 白真糸

ナライマ 西後盆子 アルモンナレヤ 柾木苈 カシフル 竜胆 カシ 樟函

カラシヲク ニニシ レイシ サル觸ヤケ フクスイ子 瓠ハリ

フレイル タツ木葉 ヒイクルイ イトナリ ヒテヤ 枳壳

アサニテム 阿魏 アヒヨシ 阿片 コルテキスアララミミヲ 枳皮

エウケレホウム カシノ木ノ着モウリ アケレムル 苦栝

サシホウシ ツツノ木葉 ハリセイシニシ 枳实 へワキ 子ヤシ

シイナニニケレフセイモシイ子コレウフ 胡口巴

サシホウイニケラコウリス○サシキメラコウニス○サシグイニケラクウニヨ

右三名ハキ毒血ヲ去シ。サンホウエリス、クワノ木ノ脂シ

セシアワシクビイイチカノ薑、ロクチノイル、枇杷脂、タルヒシテノナ、杉脂

カラフラス、巴豆、レシイチヒイニ、コロホウ子、パール、フラス、皆松脂

コラルシクシ、黍脂、丸テカカハノ脂、イ、カルハフィン、栝葜皮

カリヨウフス、イ、カラフア、ナ、ア、カラ、皆丁子シ、ハラス、男卒松脂

フリハス、ン、ラリ、ハ、子、ロ、ワ、リ、イ、ハ、子、皆、乳香、マ、チ、キ、カ、五、乳香

シ、カラ、フ、ウ、テ、カ、ラ、テ、キ、カ、ラ、テ、ヤ、栝葜皮

ハ、ラ、ウ、チ、テ、ヤ、ロ、フ、ロ、ウ、リ、ス、カ、シ、ガ、ル、ア、ワ、ル、栝葜花、カ、ア、チ、ア、カ、ワ、ラ、シ、栝葜子、チ、カ、シ

ム、ウ、ル、バ、イ、オ、ア、モ、ウ、ウ、ス、テ、セ、ル、ハ、柔、実、ヨ、チ、フ、シ、セ、子、イ、ウ、ル、フ、チ、シ、松、ノ、実

ア、セ、イ、ラ、ホ、ウ、コ、ウ、ア、カ、ス、コ、ウ、ツ、フ、ス、皆、榔、子、曲、コ、ウ、ル、セ、イ、チ、イ、タ、リ、ヤ、ロ、云、三、葉、木、葉、ヲ、云、シ、下、シ、葉、也

ア、モ、ラ、ヤ、ア、ク、シ、コ、ウ、ア、カ、ス、コ、ウ、ツ、フ、ス、ア、モ、ヤ、ア、ノ、ウ、シ、ラ、ル、イ、アル、ハ、皆、ク、ク、イ

八鳥獸之類

マルテカシス、鹿、ム、カ、フ、ス、麋、鹿、香、チ、ケ、イ、シ、羊、乳

ホルテマア、猪、ハ、イ、ル、魚、ハ、ル、コ、豚

カルフシ、鹿、角、ラ、ア、羊、カ、ア、ハ、鹿、尾

ホツコロ、牛、乳、カ、イ、ワ、カ、ロ、シ、雌、牛、乳、ハ、ル、イ、子、狐

ホツス、猫、又、狐、毛、ヲ、ハ、リ、ハ、シ、ス、タ、シ、象、牙、サ、シ、テ、ア、ル、兔

カフル、凡、テ、角、ヲ、云、ア、リ、イ、ヤ、雞、正、工、シ、雞、卵

ヘツクアレ、イ、ア、フ、イ、ハ、リ、ウ、ル、ハ、シ、エ、エ、ル、ケ、イ、ル、何、モ、玉、子、ノ、莖

ラ、ハ、ラ、シ、ア、ヒ、ル、油、カ、ラ、シ、鷓、ヘ、イ、ル、ヲ、ヌ、シ、雉、子

オロフト バン島  
オシロツネ 鵝ノ油

九 蟲之類

オフテハツヌ  
オウ子キ 白蜜  
オウキキ 蜂蜜

セイラアルハ 白蜂  
セイラシイラ イルワアス  
皆黄蜂

セイラ 蜂モ又申ス  
シフリウロン 蛇蝎  
カウフス 蛇

ケシセイ 班猫  
アヒシ 蜂子  
ウカキネン 火ノ海老

ウクリカンキリ 火ノ海老ノ頭ニアル石  
セイハアル 海鳥  
ハアラ 珍珠

シラシラシラケレ 牡蛎  
サラユカララ ○オウチク○カアチヨ 皆百葉葉

ヒニヤナア 竜鬚  
スヨリヒヨシ 蛇油  
シヤムヨリ出し

十 金石之類

アリスロロキヤ 鉉  
ミノニヨ 丹  
ニニノニヨ 辰砂

ユラル、ウフルン 珊瑚樹  
ユルノウセルヒイ 角石  
フルウロステシ 血止石

ソウホ 食塩  
ケシタアロシサラ 青塩  
ラアガンキビイ 水銀

ニルクウリ自ろシリミアタ 水銀製スル葉名  
クロシボツラステ 鉉灰

ラニスフルウシ子ラ名ノ  
ラビスカラニナリス 身名上  
カルス 石灰

カラマシモシタアカ ○ヘイマラ石油  
オウルカアルカイニ 俗ニ云  
黄土

ロウチヤ 銅ノ煙花同ホコリ  
日灰氏云未分明  
クウチヤハラク  
スワシスゲルフ 録音

ヒツラリヨウルシ 丹丸  
アモアツフスシ 明丸  
アルエろアルカシアルイシ  
アチ

アツグスケン 目焼返  
ソルアラ 硫黄  
ニアキリヨシ 信石

ソフヒリマアト 硫焼返  
ソフヒリヨマアリ 信石ノ白キ  
ニアキルヨシ  
ソフヒリマアト 信石

石ルシ<sup>同上</sup> マリクリヨ <sup>同上</sup> エルウサ 白粉 コマルアルライユラアル 白粉

赤<sup>同上</sup>イアリス タロウキヤムクハア 鉄焼延 あウリク<sup>〇</sup>あウラク<sup>〇</sup>あウク<sup>〇</sup>あウク<sup>〇</sup> 蓬砂

サシロウアルカル サカ<sup>〇</sup>イトル ロウリイルヲ<sup>〇</sup>リ<sup>〇</sup>に 燭首

シイクルジリ<sup>〇</sup>アン セシワリツタリキヨシ 金ロカス

シイタリジリ<sup>〇</sup>アルセシテ<sup>〇</sup>リイ<sup>〇</sup>タラヒイルアルエシテ 銀ロカス

カウビス あビイシ あウズイシ 石ノワタ 万<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>同上 紅毛海<sup>〇</sup>書略<sup>〇</sup>白<sup>〇</sup>子<sup>〇</sup>色<sup>〇</sup>ニ<sup>〇</sup>似<sup>〇</sup>リ

十一 酒之各

ニツフ 常酒 フラシ<sup>〇</sup>ビ<sup>〇</sup>ニ<sup>〇</sup>ア<sup>〇</sup>ラ<sup>〇</sup>キ<sup>〇</sup>レ<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>ヒ<sup>〇</sup>シ 葡萄酒 フラシ<sup>〇</sup>色<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>子<sup>〇</sup>日<sup>〇</sup>上

フ<sup>〇</sup>ラ<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>色<sup>〇</sup>ヒ<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>ヨ 焼酒 フラシ<sup>〇</sup>ダ<sup>〇</sup>ウ<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>子<sup>〇</sup>デ<sup>〇</sup>ウ<sup>〇</sup>カ<sup>〇</sup>イ 日<sup>〇</sup>上 ウ<sup>〇</sup>エ<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>テ<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>テ<sup>〇</sup> 午<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>タ

アル<sup>〇</sup>記<sup>〇</sup> 鉄 アセ<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>ア<sup>〇</sup>ク<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>皆<sup>〇</sup>酢 セロ<sup>〇</sup>ビ<sup>〇</sup>ス<sup>〇</sup>リ<sup>〇</sup>モ<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>リ<sup>〇</sup>マ<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>ノ<sup>〇</sup>酢<sup>〇</sup>シ

セロウ<sup>〇</sup>ス<sup>〇</sup>リ<sup>〇</sup>コ<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>リ<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>ノ<sup>〇</sup>酢<sup>〇</sup>ヲ<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>ホ<sup>〇</sup>リ<sup>〇</sup>鑿<sup>〇</sup>テ<sup>〇</sup>焼<sup>〇</sup>タル<sup>〇</sup>ヲ<sup>〇</sup>云 セロ<sup>〇</sup>フ<sup>〇</sup>リ<sup>〇</sup>マ<sup>〇</sup>シ リ<sup>〇</sup>マ<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>ノ<sup>〇</sup>白<sup>〇</sup>蜜<sup>〇</sup>糖

十二 雜

フ<sup>〇</sup>ラ<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>ラ<sup>〇</sup>ツ<sup>〇</sup>ア<sup>〇</sup>ヨ<sup>〇</sup>ム 兵<sup>〇</sup>ノ<sup>〇</sup>ヒ<sup>〇</sup>ル<sup>〇</sup>麦 フ<sup>〇</sup>ラ<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>コ<sup>〇</sup>ル<sup>〇</sup>テ<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>兵<sup>〇</sup>ノ<sup>〇</sup>ヒ<sup>〇</sup>ル<sup>〇</sup>麦 フ<sup>〇</sup>ル<sup>〇</sup>ウ<sup>〇</sup>カ<sup>〇</sup>ス<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>血<sup>〇</sup>止

ア<sup>〇</sup>セ<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>テ<sup>〇</sup>ハ<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>フ 胡<sup>〇</sup>ユ<sup>〇</sup>ノ<sup>〇</sup>曲<sup>〇</sup>カ<sup>〇</sup>ミ<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>サ カ<sup>〇</sup>メ<sup>〇</sup>ホ 木<sup>〇</sup>綿<sup>〇</sup>ノ<sup>〇</sup>ホ<sup>〇</sup>フ<sup>〇</sup>リ ヒ<sup>〇</sup>ク<sup>〇</sup>レ<sup>〇</sup>ウ<sup>〇</sup>ル<sup>〇</sup> 板<sup>〇</sup>枚

ツ<sup>〇</sup>ク<sup>〇</sup>チ<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>一<sup>〇</sup>切<sup>〇</sup>ノ<sup>〇</sup>け<sup>〇</sup>ヲ<sup>〇</sup>云 ツ<sup>〇</sup>フ<sup>〇</sup>フ 一<sup>〇</sup>切<sup>〇</sup>ノ<sup>〇</sup>ヒ<sup>〇</sup>ホ<sup>〇</sup>リ<sup>〇</sup>け ニ<sup>〇</sup>ヨ<sup>〇</sup>ル 大<sup>〇</sup>ク<sup>〇</sup>云<sup>〇</sup>意<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>ア<sup>〇</sup>タル<sup>〇</sup>ホ<sup>〇</sup>ク<sup>〇</sup>云<sup>〇</sup>云<sup>〇</sup>

チ<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>キ<sup>〇</sup>順<sup>〇</sup>ク<sup>〇</sup>云<sup>〇</sup>意<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup> フ<sup>〇</sup>ル<sup>〇</sup>ケ<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>ル<sup>〇</sup>通<sup>〇</sup>ク<sup>〇</sup>云<sup>〇</sup>意<sup>〇</sup> フ<sup>〇</sup>ル<sup>〇</sup>ワ<sup>〇</sup>ヤ<sup>〇</sup>シ 久<sup>〇</sup>ク<sup>〇</sup>云<sup>〇</sup>意<sup>〇</sup> イ<sup>〇</sup>レ<sup>〇</sup>キ<sup>〇</sup>リ<sup>〇</sup>バ<sup>〇</sup>シ

右<sup>〇</sup>筆<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>ヘ<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>ヒ<sup>〇</sup>ウ<sup>〇</sup>筆 フ<sup>〇</sup>ル<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>ル<sup>〇</sup>墨 ヲ<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>ス<sup>〇</sup>ケ<sup>〇</sup>ル<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>ル<sup>〇</sup>ク<sup>〇</sup>云<sup>〇</sup>テ<sup>〇</sup> ハ<sup>〇</sup>ア<sup>〇</sup>カ<sup>〇</sup>カ<sup>〇</sup>カ

ハ<sup>〇</sup>ル<sup>〇</sup>フ<sup>〇</sup>ウ<sup>〇</sup>ル<sup>〇</sup>紙 あ<sup>〇</sup>ウ<sup>〇</sup>リ<sup>〇</sup>各<sup>〇</sup>物 ワ<sup>〇</sup>ア<sup>〇</sup>ク<sup>〇</sup>水<sup>〇</sup>ノ<sup>〇</sup>意 ヒ<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>ル<sup>〇</sup>火

十三 数量之各

イ<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>一<sup>〇</sup>ク<sup>〇</sup>云<sup>〇</sup>意<sup>〇</sup> テ<sup>〇</sup>ウ<sup>〇</sup>エ<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>ニ<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>レ<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>ニ<sup>〇</sup>ヒ<sup>〇</sup>ウ<sup>〇</sup>ル<sup>〇</sup>四<sup>〇</sup>ヘ<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>フ<sup>〇</sup>カ<sup>〇</sup>セ<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>ス<sup>〇</sup>ラ<sup>〇</sup>セ<sup>〇</sup>イ<sup>〇</sup>ビ<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>セ

アソクアハ子イキン九ラシナエーロフナクワルフエニダラシナニ  
ドイジエシキオシダレル百タイウ 肝ノ位シ  
モリスモ オウシス弗

一 痲源命

夷人之言曰夫人ノ身ニハウモルトラノ血ノ右四ツ有リ其一日サシギ其  
ニ日コレヲ身ニ日ニレシラシヤロ号ス蓋サシギハ血ヲ云身血ノ本熱ニ  
湿シコレヲハ血ノ上ハ隆ニメ薄血シ身薄血本熱ヲ燦クヘシテハ  
血ノ内ニアル水シ身水本寒ニカ湿シ湿熱ノ症ハ此レマリ云ヨリ飛ルシ  
コレシユシヤハハ血ノヲリシ此ヲリ本寒ニカ燦シ寒ノ此四ノ血身ニ道不  
ナク行クル寸ハ無痲シ一ツモ七情ハ氣或飲食或歩撲金瘡遠行ルルカ

為ニ破ラレ此四ツノ血凝滯ルル寸ハ痲病ヲナス 或瘡瘍ヲ成シ故能其本  
ヲ詳ニ大瘡治ルル一ノ肝要シ

二 頭有ニ經之論

又曰頭ノ腦ヲ包ムセービシヤイシト云ニツノ經アリ其ニツヨリ六ツ通  
云リ一ニハ目ニ通シニハ食味ヲ知ニツ六鼻ニ通シ萬ノ香聞四ニ耳ニ通五ニ舌  
ニ通シ六ニ腎臟ニ通シ又手足ニ通ス是皆ニツヨリ令レ通ルシ故ニ頭ニ批ラカフ  
ル人又ニ便不通且コレニ母ヲノ諸痲ヲ瘥メ治シ難シ

按此ニ説古ヨリ聞サル必シ必災ヤヲ不詳災ハ阿蘭陀人ノ傳來ニメ  
先師ニ知傳之故ニ其依ニ書記メ学者ニ示スモ

諸瘡看法并 各附ニ方災比其因痲名會得シ難キ者多ク学者者ソシ詳ニ

察之能見分テ療治スツコ且其苦中阿蘭陀口ニ知難キ物ハ即和名ヲ以テ解ルル

三 焚ヨリ生ル瘡瘍看法 并 附方

イヒリロハ焚ヲ云此焚ヨリ生ル瘡腫ハ先其色赤ク甚タ痛急ニ腫上ルモノ  
治法初瘡ハ先押散ヲ弄テ付ツキシ押散弄方

蝮ハ性寒燥カシムル故ニ炙チルヲ以テ焚ヲ冷フシ燻チルヲ以テ肌ヲ強シ  
又ヒムルヲ以テ血ヲ押散ス

シ、リヨヒヨウラス 駒鼻 ヲ、リヨフヲロシ カ茄子 ヲ、リヨラウリイ子、ノミシ

ヲ、リヨサアロシ 茨花由シ 右四味合温テスリ上ニ正ニフラスカテニスウラ

本綿ニ人ハ付ル其上ヲ巻置シ一日ニ一度ツ、付替ルル如シ腫消セサルナリ又療

治ヲ替ルル又次ニ記ラ方ヲ用フシ

一方

ヲ、リヨロシフシイウロシ 此ハ蛭刺ヲ葡萄蘇 ヲ、リヨカモメリ ノキノ曲

ヲ、リヨラウリイ子 ヲ、リヨロウサ ヲ、リヨフヲロシ

ヲ、リヨヒヨウラス 右四味合温メスリ其上ニ正ニフラスカテニスウラ

正ニフラスカムスラキニフスニ等分ニ合セ右ノ如クニ付此ニテ散ルカ又潰ルカラ

見ルフシ如シ潰シラスル中右ノ葉ヲ除キ早ク敷スルヲ弄テ付ツ

敷スル方

先下ニイシク正ニカケリカムヲ腫物ノ總体ニスリ其上ニ正ニフラスカムスラ

キニフスヲ本綿ニ人ハ付テ右ノ如ク巻置シ夜ノ中ニ即膿ニテルル膿タル早ク



腫頭ニ針ヲサシ膿ヲ排ラナイチヤニシクエシトアホスヲスリ瘡口ニサシ入上ニ右ノ  
クミラキニブス貼ルシ如瘡口深ク廣クナラハチメイチヤヲ排右ノチボラスリ疵  
一盪ニ押入右ノ如ク上ヲ蓋シ其後日ヲ經月ヲ經テ高下ナク空ヲ上ルテ瘡  
口九分ノ程ナラハ金膏ヲ貼フシ

金膏ノ方類

テヤルルマ デヤキロン テヤホシカリコス カラサライヤ ウエツト  
スナニコロホ

右金膏見合貼フシ 凡瘡ノ膿色ハ白赤メ粘キシ

四 冷ヨリ生ル瘡瘍者法 并 附方

ヒリラハ冷ヨリ生ル瘡瘍ヲ云其瘡色ナクマツシ痛ニ自發ニ腫上ル

治法初癢ニハ先濕敷ル事ヲ付ツシ濕敷事方此藥性温ニメ燥也故温ナ  
ルヲ冷テ冷ヲ温メ和ケ散シ燥タルヲ以テ肌クナルシ

ヲ、リヨガラクゲ ヲ、リヨニナモシ ヲ、リヨニニヨウカス

ヲ、リヨラシカンライ ヲ、リヨノニシクテイヤ

右五味温ヲ塗事其上ニニシフラスルメリロウトラ木綿ニ人付其上上ヲ卷置シ是モ  
一日ニ一度ツク替シ如石散ハ潰ル膏ヲ貼フシ

潰膿方

先下ニニシクエシトハシリコシツスリ其上ニニシフラスルメラキニブスツ付シ  
ヨク膿タルハ針ヲサシ排膿又針ヲサスニ口傳アリ即下ニ記ス

刺針法

針ニ燒針子針口ツフクウリウシクニツアリ冷ヨリ生シ腫物或ハ大ナル腫物ナリ針ヲサシ血走ランク思フニハ何程モ燒針ヲ用フシ口フ能ク熱クシ膿出シロ思フニハ平針ヲ用ユ凡テ針ヲ嫌フ腫物ハ口ツフクウリウシクニツアリ此ニハ痛出モシ又アキ膿出ルニハ鉤ノ燒込ラサカテ白ルシ又カイ子ヤラサクツシ焚腫モ目取膿色白ナ粘リナキシ

五 風邪ヨリ生シ瘡瘍着法并治方

ヘシテハ凡ヨリ発ル瘡腫ラズ是モ冷ヨリ生スル故冷シハ血行ラス不行レハ空虛タル処凡テ痛ヲナスカ云リ凡テ腫白クスキクナリ老ルニ叩ケル凡声アリエシラ抑セハセキ(凡ノ觸当ルカ如シ甚疾人モ覺ル此瘡似膿ウエサルニ平針ニ針ヲサカフカラス先散ヲ用フシ日久不散潰シクセハツフクウリウシクニツアリ又燒針モヨシ初発痛ナラ先痛ヲ止ム業ヲ付フシ

止痛方

ヲリヨロウサヲリヨロモマリヲリヨア子テイ子ヲンドロツツテ  
右四味合温メ塗リ痛ミ止ラハ強キアリニテ洗テ兼付フシ

一方

ヲリヨロウサヲリヨレリヨウロンヲリヨロウリイ子タツノ実油  
ヲリヨロウシテイ子ヲミナメシノ油

右四味合シ温メテ身トシテシララケリシウレテ木綿ニ包付フシ

ヘシテ下第方

ルイアルボ 刻に大苦ア 赤ニ大鏡湯ニ入置ク一一夜翌日白砂糖三分入カキ又  
温メ用レハ下ルニ 其効ハ瘡和キ 色白クキニテ 押ニ冷シ 強ク押テ  
ハクオミテ 腹ワラサルニ 熱血文タルオハ 瘡熱モアリ 色モ赤メ腫上リ  
ウレシ 又 痔腫ノ類 不散 潰メ 堅ナリテ 有ハ久クアルニ 初ニ 乾ニ 先水  
ト 酢ロ合シ 石ホシニ 浸シ 蓋ニ 其上ヲ 木綿ニテ 巻置シ 其後 アケカ 或 焙  
肖ノ水 カキテ 石ホシヲ 浸シ 付ルニ 右ハ 濕 疾ヲ 燥カス 薬シ 石ホシニ 石ナリ  
ニハ 海馬 テレ代ニ ツツア フシ 此腫物如シ 大ニ 成テハ

ヲリヨロホアロ ヲリヨロヲサ ワアロロホアロ 各五分

フワト ヲ監 フルフル ヲ硫黄 右合スホシニ 浸シ 付腫ハ 夕一極リタラハ

ヲリヨアルルカミシイヤ 河原ヨモキ ヲリヨレリヨウロシ ヲリヨロヲリイ子

ワアロロホアロ 右合シ 付ヤウ 右目新

又方

オウデオス夕 一味 牛黄 油シ 酢ヲ入 藥ニ 白蜜ヲ 加一糊ノ如ニメ 付夕 腫物カ

夕夕キ 散ルカ 如ナラハ 大豆 大 鳩糞 中 フルヲ 中 硫黄 白蜜 中

右合シ 草ノ けニ 和シ 新方 付夕 又 腫物 潰シトセハ 無スル 藥ヲ 付

一方

唐菱根 六仁 葛白 右三味 藥ツメニ ンテイカ 寒ノ中 麴ヲ 合付

ルシ 潰ル 驗ハ 夕夕 堅ク 成リ 夕痛セテ 赤メキ 扱セ 此 是 膿 有ル 是ヲ

知ルシ 則 燒針ヲ 刺ス 後ノ 瘡 治ハ 目 最 此 腫物 如 堅ナリ 瘡 治テ 下サル

寸ハ マレシ コシヤト云 瘡ノ 治法ヲ 用

六 瘰癧治法

アツクアテナイミカハ瘰癧ヲ去此は瘰癧タル血損タル血ヨリ生ラ初ハ粟米ノ  
如ク生痒メ後痛クテ大ニ腫ヒロカルシ治法先廻リテヘニスウクシ  
或ハテヤハルマニテモ付マハシ要血ノ外一散ラサル様ニセキテ瘰癧ノ上ハ  
ニクエニトバシリコムヲ付其上ニエシワラカムヲキニブスヲ木綿ニ心蓋フ  
腫頭赤ニ付タル処一面ニ粟粒ノ如ク吹ク其時子針ヲ十字字ニ  
破リ血ヲ出シ拭ヒ去テハジリシヲホツリテ付テ其上ト右メ如クウラキテ  
スミヲフフシ又バシリシニラ腐兵脱シ種キハハシリコシカアボヲ等命ニ合  
ホツリニ蓋付シ其上ハ同前又膿多腐兵竹ノ根ノ走リ廻リタルガ如ク  
有ラソロクハシケイルニテ切取シ如馬兵出者アホスヲ付ルシ又腐リ不

止メ崩レ行ハ燒金ヲアツルシ但新キニハアテサルシ初ヨリ瘰癧ノ廻リニ口  
ウサノ油ヲ塗テヨシ瘰癧ノ初発ヲ看テ押し押サナク付シハ忽チ  
人ヲ殺ス一夏毛モ寒冷ノ氣ヲ貼スアラス只温氣ヲ付外一腫止ル  
ヤウニメ瘰癧シズニサルヤウニ瘰癧治スルノ肝要シ故ニカツラフラスコウテ  
蒸氣ナロ日ニ用ルノ有如此ニ心得瘰癧治スレハ重キモノモ輕ク危キ者  
モ安カラシ君治ラ護ラハ此ニ及センコトナシ

七 疽治法

カラシケイシヨクハ疽ヲ云シ初発先腫平カニ身ニ焚ナク只一身クム  
ヒレ瘡モ焚ヒス多クニ腫シヒラヌメ日ヲ歴テ漸ク廣ク大ニナリ或甚  
痛マズ潰破レテ後空色黒シ外破レサル最ニ先臍臍腐レ爛ルナリ

此要瘡し多ハ不治治法ハ温熱ノ藥ヲ付或熱ノ藥ヲ用テ外一腫上  
ルヤウニ瘡ヲルテ肝要シ丸内藥用テ第一云々

八 疔治法

アケセスリハ疔瘡ヲ云シ又カルフコヒ云初瘡要寒熱熱ト一身ハクルカ  
如シ毒血シ瘡根深ク腐リ殊ニ火ニテ燒カ如クニテ總身ヲクムモノシ赤  
米ノ如クニ大坐ヲルルシ色赤モ紫モ赤モ有但黒キハ要シ急ニ針ヲ  
サシ毒血ヲ抜去リシ其針ロニアホスヲおツリニスリ付其長ニムヲキ  
ヲ付シ但面ニ生レ疔ハ卒尔ニ針ヲサス下勿レ誤ル下ヲシ瘡治ハ

目筋

九 瘰癧 治法

カシケレナリハ身ノ内何レノ処ニモ瘰癧レ瘰 エラハナキヲ云シ 此病ハ血筋冷  
テ瘰癧ルハ譬ニハ雪中ニ歩行シ足凍ルカ或腫物ニ強押サテ付ルカ或手足  
ナリ物ニ以テエケシメケルカ如此者ニカシケレナリ云瘰癧シ血如此凝滯シ或  
処冷身処或熱ニ瘰癧ルモ有或瘡有テ大毒ヲ付ルカ又ハ打撲金瘡ナリ  
テ先血ニ瘰癧ルカアリ瘰癧ノアシトシナハ色紫ニ痛モ覺エス久ナレハ黒ク  
成シエテヨメケルニ其処ヒロガリ歟ルシ又寒ノカゲニナレハ色変セス  
或白クカ刺モ覺エス其処タルキテ付テ覺ルシ治法ハ温ルニ藥ヲ付テ  
レ云シ即チ藥方ヲ記ス

一方

ツクリヨシヲレウカウロシ ツクリヨスアカタ ツクリヨロウリイ子

ヲリヨオツス 右四味等分ニ合温メ付 其上ニエニフラスホマリロウウツ付  
シ或ハヲシコロシヨシ又ハケリジウシヲ付モヨシ 焚ノビケレトハ先針ヲ立  
ワリ覺ノアル処ニテ切り取り血ヲ出メ水鹽醋合メ温メ洗テケシクニ  
カアホスヲオツリニ塗付 其上ニエニフ付テ良色直リ痛有ハデニスイ  
フシ計ヲ付フシ 此症早瘡治ス氏々然ルハ覺アル処ニテ切り取テ其アウラ  
金瘡瘡治スシ 焚ラサレハ何ホクモ瘡ニロカルモノ

十 癰疽治法

ハナリシヨクハ癰疽ヲ去シ其瘡先瓜ハ兵ウノ間ヨリ瘡去付置ハ  
骨ニ入モノ ヲシモ膿ハアラハ早子針ニテ多破リテ多シ初瘡ハ先シ  
クル茅ヲ付 血ノ敷サレヤウニスシ 稠酢ヲワカシ指ヲ半時キリ

付置テ多シ或ハヲリヨロサアハ 雞子白車最子水ヲ合セ木綿ニ浸シ付  
良此茅ノ葉初瘡痛ヲ止メ敷ルシ此ニテ痛止スハケシクニトハシ  
シラケニスリテ上ニウラキヲ付潰タルハ燒針ヲサシロラ明ツシ付  
葉ハ同葉シ若骨ニ入腐ルモノハ燒酒ニシテケシクニケヒシヤコシラキ入  
拌洗ニ其後アホスハケリ等分ニ合テオツリニ浸シ付ケスラキヲ以テ  
上ヲ蓋シ 若骨色付テ青サビ有ラハコウケ取テ茅ヲ付フシ如シ骨  
上ニ肉カカリ 葉ルハ燒酒白蜜ヲ 雞子黄白氏ニ三色合セ温クワカ  
シ能洗ニ拭ニ去テ付茅ニハ鹿角 白燒雞子黄白氏ニ合セオツリニ  
浸シ付テ其上ニエニハラカガラサシテヤラ付ルシ久ハ二日程オキ  
夏ハ朝夕ニ付替シ 又日ヲ歷ルテ久骨クメケ出ルニハ蜜燒酒ニ

洗に見出骨ニカ、ラスの又能骨ヲコソケ能洗ニ雞皮ヲ切リテ付ク  
其上ニ雞皮ヲカドセラノ巻シ夕々ハ二三日夏ハ一日一夜其カヲサレテ  
ニ其カ、リテ後ハ右ノ洗ヲ行ハシムルニエシテアリヤクシテ入拜セ洗ニ付  
其ハア、スラ付ケルノ入ラヌ様ニ能巻テラクシテ鹿角、辛、多ニ金、羊  
ヲ用テ包シ唯要ケテ拔去様ニラフニ要ケルニ金、サ、ハ、男、ハ、エ、シ、フ  
ラ、カ、デ、ヤ、ホ、シ、ホ、リ、エ、ス、ヲ、付、ケ、テ、ヤ、ス、シ、又、痛、甚、モ、ハ、將、軍、下、シ、用、テ  
モ、ヨ、シ

十一ア子ウリウマト云腫物病因并治法

ア子ウリウマト云腫物病因并治法  
ア子ウリウマト云腫物病因并治法  
ア子ウリウマト云腫物病因并治法  
ア子ウリウマト云腫物病因并治法  
ア子ウリウマト云腫物病因并治法

テ重キ物ナリヲ持血滯テ成シ外癩ハハハオロシテ身ヲ切或ハ或ハ  
打チリナキ分ニ其疵愈ハ本其筋愈サレテ又血滯リ後此疾  
ヲナシ何モ血筋ナシ故ニシテサレテ針ヲサセハ血止ラスメト処ルモノ  
ニ此症瘡モナク又潰モセズメ血漸クニ多ク集リテ上皮膚ウルクニ膿  
破血出ルハ久クハス赤膿有ハ治シ易ク見知難キモノシ押テ見ルニ  
膿アルヤウニ和シメ色モ変ラヌサレテワリルヤウナルハモアリ是ハ肉ヨ  
ウ上ル時ノ変シ右ノ腫物破サレテ愈ニ介ル葉ハ強ク押シ臭ニガシ  
クル葉ヨシ

一方

栝栢皮 側栝葉 血竭 三味末 雞子白ニ調一付

又方

苦苣水 蓮葉汁 柘苗皮 側柏葉 虎骨

右合分ルシ總体寒冷ノ藥ヲ付カヨシ一人此瘡ヲ治ス日十レハ要  
ヲ取事処ニ重子置ヒタモノ取替テ愈是事驗シ如レ破レ血出テ止  
ラズシハ多クニ蜂ヲ引針ヲサシ血節ノ方ヲ通シ止ハ木綿ヲタタミ置  
堅ク、リシメ猶強キ藥付テ彼腫ル処ヲ立テ破リ集リタル血ヲ  
尺ノク出ラシ此ハ其血節ヲク、リ血通ヒナト様ニメ集リタル血汁  
ヲ出仕様シ其アトハおツリニアセフレズ 乳各中 丹石 燒返少  
此ニ味ホシ付テ破タル処ニ益ニ押込ニ其血ニ難子殺ホシ側柏葉  
葉ホシ合ヒ付又其止ヲ木綿ニ酢ヲ浸シ付ワキヨリ膿出ル迄右ノ

藥ヲ取テ其後右ノ藥ノワキヨリ膿少ク出ル才右ノ藥其後置ワ  
キヨリ膿ヲ拭ヒ酢ニ浸シタル木綿 計ヲ日ニ取替下ニ付タル藥ハ自ら  
落ル迄置シ其時ハ愈ハ止リ要物少ク毛殘ラズ因テ愈藥ヲ付  
愈方其後彼シカラキタル藥ヲ取ルシ切疵ナトノ血ヲモ何程止テモ  
止ラサル中能見血節ヲ見分ケテ如此ニ止シシ笑レ能得ルハ成  
難キ事也

十三コレラト云腫物之原因 并治法 小瘡ノ類

コレラトハ血ノ上澄ヨリ生ル腫物ト云リ皮膚ノ上ニ染ミ出ル瘡ヲ  
小瘡ノ類シ余リ腫上ラズ專ラ瘡ヨリ瘡ルモアリ又凡邪ヲ集ル  
モ有熱火ニヨルハ火ニテアトシ是瘡也亦凡邪ヲ集ルハ痛シ針ヲ刺



カ如ク治法ハインク全ニトアルフンカニフアラハインク全ニトテ、リウシ此ニ  
合セ付ルシ如シ膿滓キ者ニアボスルロウルニラヤ加テ付フシ

十三アガツタク云腫 并治法

アガツタクハ水腫ニテボウルルケ云筋ヨリけノ出ルケアリ是ヨリ水サマ  
出テ皮〇成ルシ身腫レ和ニメ色変セテ押テ〇物ヲ叩ヤウマアリ  
夜灯ヲ煮人ノクバニ〇ニワキケラレシ大形老人或疾者キ人ニ〇筋ク  
或ハ陰囊ニ生テ治法ハ大カ〇ハコモノニヨラズホシテ三浸シ付ルシ又イ  
ント〇コモノニヨラズシ付モヨシ コモノニヨクハウニ 椰子油

一方

イラクサノ実 カラン ソルフウ 硫黄 薑陸 各ニ錢

セイラノ膏 ヲルケアル油 ヲ 右ノシクエントノ加減ニ煉

又方

タツノ実 赤ニ錢 胡椒 同 クフノ実 油 同 セイラ

右ノシクエントノ加減ニ煉付ル又山帰来葉腹ニモヨシ〇小兒右ノ瘡ヲ生

ル者有是ハ生ルニオアツクヤ荒クメ筋損シ又血滯ニ故ニ水腫物ノ

ヤウニ生ルモ右リ身色変ス痛モナクメ和シ又打撲ニヨリテ生ルモ右

身色変シ痛モアリ深キモノハ表痛ニ淺モノハ和ニメ痛ニス治法ハ

散ニ弟々シ又ハ右ノ膏ヲ付モヨシ又或ハカモナリノ油ヲヌリ身骨フルフ

ララ搗リテヨシ蝸牛壳凡ニツキ 碎キ乳香ノ膏ヲ加一分ルモヨシ又チレノカ

ニ膏角ヤ リウト 散 右白蜜ヲイシクエントノ加減ニ煉付ルシ大形ハ散  
三十日

ルし如不散ハ針ヲ破リ血ヲ出シ其後腫物口明タル時人治法ヲ用テ良

十四 アルニヤロ云腫物ノ治

囊癧之類

アルニヤロ陰囊ニ生ル瘡ヲ云リ此瘡類多ク大形ノハ湿ヨリ発ルシ熱大ニハ押テシ性寒ナル事ノハ酢ヲ合セ分ルモヨシ又車炭少ケ雞子白合セ分ルシ初瘡ハ散ヲヤクニ瘡治スシ如潰シトセハウムヲ少ツケウシタラハ又ロヲ明ケテ瘡治ス大禁故ニカンゲレナシテ冷タル寸禁ノカンゲレナノ瘡治良シ又凡ヨリ発リ水ヨリ発ル腫物ハ右ニ証ヲ見分テ瘡治スシ水ヨリ発ル腫物ハ水ヲ出シ雞子白ヲ付シ陰囊ニ堅キ腫物アリ是ハコレシニヤノ瘡治良

十五 コレシニヤロ云ヨリ生ル腫物ノ治法

コレシニヤロ云ヨリ出ル腫物ハ此紫黒是血ノヲリヨリ出ルシ湿癩ニ交テ出  
ノ有又別ノ腫物ナレ長強キ押テテ堅ル故ニ堅成テ紫色ニ成モ有  
ソレハ堅ク成テ痛ヲコレシニヤロヨリ出ル腫物ハ茄色ニ成堅シ又湿癩ヨリ出  
ルハ色変ラ此ヲナクルニ冷クシ押テテ覺ナシ如此ハ瘡治シ難シ此証ハ常ニ  
腫ルト要シ食物ハ湿熱ノモノヲ用テヨシ又炒カクバンキ物ノ類ヲ忌  
シ付テ弟ハ和カナル散ニ弟ヲ付ツシ

一方

唐菘根葉雞油ヲ合付テ良

又方

メリロウト 五割 テアキロシ 十割 牛油 日 雞油 日 アヒル油 日 白蟻  
見合 右合色白蟻好加減入リシト全シトナ付一シ又唐菘根ニルメラノ仁

藥加テ付モヨシウケス清ス美ク付フ

一方

唐棗根 百合根 子ワア かくキ人多ク云

右三味藥海ヲ去テ タルマイル 小麦ノ粉 麻仁 猪油 右三味藥美

ヲ入煉合テ付ク能懐タラハ口ヲ明ツ

十六カニエロウリ云腫物治法

カニエロウリハ血ノツリ集リ先ヨリ先腫物ト云腫堅ク丸ハ色薄黒

キ物ク早クヒロカリノホカキ痛ク初奈ハ豆程ニ座座ク廻リニ蟹ノ足ノ

如ク血集リタル節見ル又見サルモアリ大変ナル腫物ク治法ハ切破

リ廻リニ焼カキラアテ良此法余リ強キ瘰治ナレト在テ去ル又付

フ美テ治スルモヤシ押散ス美ヲ付フ

一方

ヲリヲロサアト トラウキヤ 唐ノユラ云 リクタリキリヨシ 寧院僧ク

右煉合貼ス

又方

ヲリヨロサアト 車散子 搽け 右二味ホ分拌合塗ル

十七カニエラスト云腫物之治法

カニエラストハ疥ノ類ク是モ血ノ濁リヨリ生ルト云リ 何ノ処ニモ集リテ

赤腫シ堅ルハ内外各ニ熨シ外痒ク初ハ豆程生テ早ク大ニ成リ其四

辺粟粒ノ如キ物生ルハ潰テ後痛ク打テ云カルフニニ類ス又青筋アルモノ

犬変し尤熱甚し食進不吐逆ナラズルモノ治法ハ押散ヲ用

酸栝面 中栝面 皮実氏ニ右酢ニテ煎炙シ乾シ末大四巴ニ付腫頭ニ

雞子黄ニ鹽ヲ入木綿ニ入テ付痛ヲ止其後ハウニ藥ヲ付フシ

ウニ藥之方

少養葉 唐養根 右ニ味濃葉次ニウキシタルマイル雞子黄此ニ味右ノ

藥葉ニ合シ煉ヲ付ケ廻クニハ花ノ水木綿ニ浸シ付ルシ又ウニタラハ針

ニノ口ヲ明瘡治スフシ又膿毒ヲ吸出ス妙藥ハ雞或ハ鳩ヲ殺シ其

ニメ温カナル内ニ皮ヲハギ付レハ毒氣抜ルシ又右温カナル内ニ肉ヲ切り付

毛良

十八疔瘡治法

セイルカスリハ疔瘡ヲ治シ治法ハ先洗ヲ用イシトアルカシテ

アウシラ付ルシ

洗藥

アキリモウシヤ 煎燒ヤシ アルクニジイヤ ヨモキシ カンテ 薄荷 荷 くりきりシヤ

耳中 右藥洗シ其上ニ膏藥ヲ付若膏藥ヲ命カ子ハ此藥ヲ用フ

一方

イソリコシウセス赤ニメ加一ホフリニ浸シ付フニ如麻リ止ラス又膿多ハ

一方

花ノ水ニ丹唇ノ赤ヲ入水ノ青色ニ成ホトニメアモアツブスルン 生明丸 カシラ

各少許ヲ入拌セ其上ハ澄ミテ洗ハ腐止リ膿モ止リテ良其時瘡膏ヲ  
付フニ 焚腫押散ヲ用フニ 川芎 車前子 駒引少 皮子氏

荷葉 茶 酸栝面 右末ニ煉合付ルコノ方甚々第カ強シ

又方

ヲハリヲ口ガアハ 萎葉 雞子白 右三味煉合付此方第カ起和シ

洗第

ヨモキ 圭 丁 兵豆蔻 コノテ栢葉 葉突氏 右葉温洗テ初葉押葉

ヲ付大ニ腫レハ押葉三分一合ニ散葉三分一合セ付フニ大ニヒロカリモセテ又ハ

ニモ成ラスメ突極リ多クハ押葉第分ニ付フニ腫物片ムク者ハ散葉ウ

ハ中ハウニテ美シ 焚腫下便毒或ハ毒腫瘰癧疔瘡類ハ押葉又傷

凡傷寒後熱毒瘡ヲ成ス者押ハカラスウマヌカ能シ此瘡モ專テ押葉

ノミヲ用ハカラス

付第

葵 豚油 雞子黃 右煉合セ付ルコノ方

又方

麻人 タルメイル ウキン 右水油ニ合付フニ

腫物膿有ルヲ看シ先瘡腫レテ甚メ痛シ色赤焚メ寒熱焚アル

者ハ散ラヌメウムトハ得フニ夫ヨリ瘡ニ和ニ成指テ押テエテ動クヤ

ウチラハ膿ニ成リ知フニ即針ヲ刺膿ヲ排フシ 凡瘡節ヨリハ膿アラハ

針ヲ口明シ又血止ルニシキ腫物瘡針ヲ用シテ最ニ記ス腫物ハ縫合

ウミナラ遅く白明テモ石若し

口明菜

石灰ニサアシ 二味合セ付ル

ヒトドロノ粉 寸五分 此二味合セ付ルモ良

右何ヲモ口明クキ処ニサアシ許ラ口明シ 尤甚シク痛クモシ 鉄粉ヲ加フ付

ハ縦合口明カク氏針ヲ刺ニ痛ミテ寛正ス妙

十九重舌之治法

ラオラハハカ舌ヲ云リ 此頭ヲリ焚シテ粘キ疼下リ集リテ出モク 此ニ

二種アリクハ雞子白ノ如シハ色赤白木瓜ノ色ノ如シハ和ヤシ 是ハ治

シ易シク云リ又久シハ色黒メ堅シ是尤モ治シ難シ

一方

葵 唐葵根 大麦 鉄 各洗炒 砂糖 蜜陀僧 葵栢

右何モ末ニメ搗リカリル ○木瓜色ナルハ舌ニ酢明凡 蓋 此三味蓋

ニ洗テ次ニ燒蓋 栢苗 此二味末メ搗リカリル

ウミタラハ針ヲ破リ膿ヲ取り温酒ニテ洗ヒ右 乳皮 此二味葉洗テ

金ニシ

二十フレイマシント云腫物ノ治法

フレイマシント云腫物ハ腫上リ熱シ色紅ニ痛ニ押ニ下ヨリ持上ル 是モ之

ウモルヨリ生ラク云 治法ハ馬血ヲ散ラシ

一方

雞子莖 蒼水 花ノ油 右合付又茅苳自突汁用モヨシ

右ノ腫物痛クハ押柔ニ付 ツリヨロサノ口 蓮油 ケシノ油

右三味合已塗ルシ

痛甚者 和クル柔ヲ付ツシ カスロメイル 大麥粉 一味乳汁ニ調一付其

後ハ雞子莖ニ和付

又方

雞子莖 白比 乳汁ヲ合付モヨシ

又方

茅葉 駒引葉 二味藥 カスロメイル 雞子莖比ニ煉付セ付シ如大

ニ要ナラハ押柔三分ニ散柔三分一合セ付ツシ

又方

茨花 駒引 カスロメイル 野菴花ヲ云 雞子莖 カスロメイル油

カスロメイル 右各亦分合付ルシ腫極リタラハ押柔散柔亦分ニ付ルシ

又方

メリロウロ オウノヤ 茅ノ葉 カモカリ葉 ロサアロン 右藥付

一方

カモカリ メリロウロ 麻人 右亦茅葉ヲ藥具ケニ調付シ此藥

ニ腫消サス和カズハウツ柔ヲ付ツシ

一方

爵金 カスロメイル 小麦粉 水油等分ニ調合セ付ルシ

又方

薯蕷 一 鹿藿葉 右二味末 豚油 雞子黃 三 調 一 分 匕 勺 之

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

阿蘭陀外科治法



Kitasato Memorial Medical Library